



いじめらぼ  
いじめのラボレーション

スクールサポーター  
(臨床心理士)  
小林 真理

いじめ(2)

今回は「どんな人がいじめの加害者になってしまうのか」について、一緒に考えていきたいと思えます。

この数か月、子ども達との面接の中で、このテーマについて聞いてみたところ、「気に入らないことを表情に出すことが許されると思ってる」「気に食わないと手をだす」「高いところに自分がたっついていたいと思ってる」「他人の意見を受け入れられない」「圧力をかけたがるような人や集団」「自己顕示(難しい言葉を知っているな、と私は感心)のためにいじめる人」「集団でいたがる人」などのような意見がありました。さらにいじめの理由を「本格的な理由があつていじめていることはないと思う。特に理由はなさそう。ちよつとした出来事を発端に、それがエスカレートしてしまうかんじ。小さいなことで起きそう。」と

分析していました。

これらは一部の人に聞いた意見なので、これが全てではありません。もちろんありません。この記事を読んでくださったっている方、それぞれにお考えがあることが当然のことだと思えます。

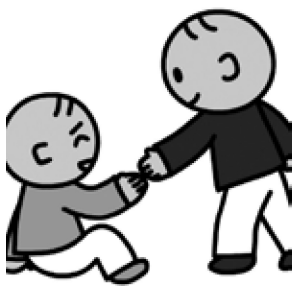
いじめの加害者の心の深層には不安や葛藤、劣等感、欲求不満などが潜んでいることがあります。そのような視点から子どもの生活をみていくことは、加害者となつてしまふ子どもやその保護者への対応を考えていくうえで重要な示唆を得ることにつながります。特に、いじめの加害者がかつて被害者であつたり、学校や家庭においてさまざま問題やプレッシャーを負わされ、しかもなぜ自分がいじめに走つてしまふのか、どうしていじめることではか気持ち保てないのか、ということに自覚がない場合には、ていねいにその背景や内面を理解していくことが大切になってきます。

いじめの加害者に対して、行為を糾弾し処罰するだけの対応では、いじめが表面的には沈静化したとしても、加害者をいじめに向かわせた根本の原因は持ち越されたままになつてしまい、いじめが水面下で継続される危険性もあります。いじめの真の解決のためには、加害者の抱える心

の傷を十分に理解した上で、自分の犯した罪の行為の意味を理解できるように支えて導いていくプロセスが重要なのです。

このプロセスにおいては、加害者となつてしまつた子どもを、丸ごと抱きかかえる大人の存在が求められます。子どもの失敗や過ちをないことにするの子どもへの愛情なわけではなく、子どもと一緒に傷つき悩みながら、立ち直りを身近で支えていくことこそが愛情なのだと思つて関わっていくことではじめて「自分は大切な存在なのだ」ということが子どもの心の中に実感として湧いてくるのではないのでしょうか。

「よく普通の欠点も弱点もある自分」を好きになるということは、「まわりにいるごく普通の欠点も弱点もある人たち」を認めていく認め合いの気持ちに発展していきます。私たち大人一人ひとりが、まずこのことを考えていけるといいですね。



図書館コーナー

◆中軽井沢図書館

イベントのご案内

◎青木館長朗読会

「ミミ」 小池真理子 著  
8月12日(土)  
14時から

◎文化講座

「小説家の日々雑感」  
出演 作家 小池真理子 氏  
8月12日(土)  
15時から  
\*先着80名まで

◎おはなしツアーによる

小学生のためのおはなしの会  
おはなしの会  
8月3日(木)  
10時30分から

夏休みスペシャル  
8月5日(土)  
10時30分から

小さなおともだちのおはなしの会  
8月21日(月)  
10時30分から

当日、保健師による乳幼児の相談も行います。

◎図書館夏まつり(友の会)

文学のおくりもの・朗読リレー  
恩田陸「蜜蜂と遠雷」  
8月6日(日)  
14時30分から

ドギマギ対談「軽井沢を読む」  
出演・古市憲寿氏 窪島誠一郎氏  
8月7日(月)(有料)  
14時から

◎実験劇場

テーマ 「迷信」  
8月23日(水)  
15時から

新しい本が入りました!

悪寒	伊岡 瞬 著
政略結婚	高殿 円 著
心は燃える	ル・クレジオ 著
顔の老化のメカニズム	江連智暢 著
おともだちできた?	恩田 陸 作・石井聖岳 絵

※図書館のホームページで蔵書検索ができますので利用してください。  
<http://www.library-karuizawa.jp/>

図書館の利用にあたっては公共交通機関の利用をお願いします。

【申し込み・問い合わせ】

中軽井沢図書館

TEL 41-0850  
FAX 41-0851